

名久井農業高校との交流特集号

～名農祭（文化祭）&収穫感謝祭に参加～

10月26日（土）～28日（月）に、本校生徒11名が青森県立名久井農業高等学校の名農祭と収穫感謝祭に参加しました。名久井農業では、山田町の特産品販売、町の復興状況のプレゼンテーション等を行い、交流を深める目的です。

出発の26日朝は、大雨の避難勧告のため出発時間を遅らせ、2時間遅れて名農祭に到着。たくさんのお客さんが、特産品販売を待っていてくださいました。山高生と名農生はお互い混じり合い、それぞれの販売を行いました。2日目の27日（日）には、梨の収穫なども体験させていただきました。28日（月）に行われた収穫感謝祭では、名農の全校生徒を前に、復興状況のプレゼンテーションを行い、また餅つきにも参加しました。その後は、野外のバーベキューで交流しました。帰りには、名農で育てた花や野菜をお土産にいただきました。参加生徒たちは、楽しく充実した交流ができて満足して帰校しました。

〔2年B組 道又 凜さん〕

みんなで協力して山田の特産品を売ることができました。名農生の出店のレベルが高く、看板から商品まで、準備の段階から力を入れていることが伝わってきました。宿泊は民泊で、初めての経験だったので緊張しましたが、受け入れ先の方々はとても優しくリラックスして過ごせました。収穫祭では、山田町のプレゼンテーションも滞りなく行い、餅つきなどもできて楽しかったです。その後の焼き肉での交流も、名農の先輩方が面白いおかげで楽しくすごせました。

〔2年B組 小林 未空さん〕

山田の特産品を、みなさん笑顔で買ってくれたので、私も嬉しくなりました。宿泊先では、農家ということもあり、たくさん新鮮な野菜や果物などを使って料理をしました。収穫感謝祭では、みんなで餅つきをして盛り上がり、焼き肉での交流を深めることができました。充実した3日間でした。

〔2年A組 横田 理紗さん〕

名久井農業高校は一つ一つの科がそれぞれの魅力を活かし物品を売っていたこと。たくさんの方が山田の商品を買ってくれて、山田を知ってもらえたこと。名農の3年生の方が優しく接してくれて、交流を深められたこと。以上のことが強く印象に残りました。

〔2年A組 佐々木 莉那さん〕

山田の特産品をお客さんにアピールできて良かったです。買ってもらえるように、自分たちから声をかけたり、商品の説明や会計をしたりなど普段は余りすることのない経験をすることができました。

〔2年A組 松崎 寧緒さん〕

名農のみなさんに、震災前の山田のこと、震災後の山田のこと、復興のためにしている活動、山高がどういう学校なのかなど、たくさんのお話を聞けました。山田の醤油などを求めに来る人もいて、すごい人気だなと思いました。

〔2年A組 佐々木 未衣菜さん〕

名農の生徒が出しているお店では、自分たちで育てた作物を使って作ったジャムがあったり、焼き肉のたれがあったりして、すごいと思いました。名農のみなさんとは、徐々に話ができるようになり、最終日には3年生の方々が優しく声をかけてくださり、楽しく交流でき楽しかったです。

〔2年A組 尾形 ヒカルさん〕

山田の特産品を持って行って、たくさんの人に買ってもらうことができ、すごく嬉しかったです。お客様とのコミュニケーションもしっかりとることができたので良かったです。みんなとたくさん声をだしたり、声を掛け合ったりして協力できました。

〔1年A組 上野 美海さん〕

名農祭に参加して、規模の大きさに驚きました。サーティーワンにも協力してもらっていて、来場者がいっぱい、圧倒されました。3日目の私たちの発表も真剣に聞いてくれて嬉しかったです。

〔1年A組 長根 凌菜さん〕

名農の文化祭では、アーチェリー体験やキーホルダー作り体験など色々な体験コーナーがあり、とても嬉しかったです。サーティーワンやビンのコカコーラの模擬店などもあり、とてもおいしかったです。収穫感謝祭でお餅をついたことも良い思い出になりました。

〔2年B組 橋田 隆輝さん〕

名農の文化祭では、たくさんの方々と交流し、コミュニケーションをとることができました。この経験を自分の将来に活かしていきたいと考えています。

〔2年B組 中山 那菜歩さん〕

山田の特産品販売では、1日目は自分から動くことができず、あまり貢献できなかったです。2日目は、山田の醤油を売るために工夫することができました。商売することの大変さなども学ぶことができました。名農のお店での販売では、名農の先輩方が優しく教えてくれて、お客さんの呼び込みなどを率先してできました。



～名農 山田町で防災学習実施～

本校生徒の名久井農業高校文化祭参加に先立って、10月2日（水）名久井農業高校の生徒18名が山田町で防災学習を行いました。午前中、鯨と海の科学館を訪問し、展示内容を見学し、震災時の様子やその後の復興について説明を受けました。午後は、山田高校での避難訓練に参加しました。

さいかち祭など、外部の方が多く訪れる機会があり、本校の体育館に避難所が開設された場合、いろいろな方々と協力する必要があります。

体育館に名農の生徒さんを先導し、避難したあと、日本赤十字岩手県支部から6名の方をお招きし、毛布でのけが人の搬送訓練や応急止血などを一緒に学びました。

名久井農業高校の生徒さんの感想です。

〔佐々木 楓太さん〕

私は今回の山田高校防災訓練に参加して、山田高校の方々がどのような訓練をしているのか、災害でけがをした人の応急手当の仕方などを学びました。日本は、地震などの災害が多く、それで津波被害がおきてしまいます。私はその時どのような状況だったのか詳しく知

りませんでした。山田町を訪問して知ることができました。また同じような被害が出る可能性は十分あるので訓練で学んだことを活かせるようにしたいです。

〔佐々木 亮太さん〕

僕は今回の山田高校防災訓練を通して助け合いの大切さを改めて考える事ができました。東日本大震災から年月がたち、津波の恐ろしさや被害にあった方々がまだ仮設などで暮らしていることを忘れかけていました。しかし今回の防災訓練で亡くなった方々や未だに行方不明で見つからない人達がたくさんいることを教わりました。今回教わった応急処置のやり方などをこれからの生活に生かしていきたいです。

〔夏堀 颯太さん〕

僕は、今回の山田高校防災訓練ではじめに思ったことは、東日本大震災で起こった津波や地震の恐ろしさです。僕は、この時はまだ小学1年生で地震や津波のことはあまりよく分かりませんでした。年がたつにつれて津波や地震の恐ろしさというのも知り始め、東日本大震災で家族や友人が亡くなられた方々の悲しみを思うと胸が痛くなりました。そして、今回の活動で改めて被災された方々の思いを知ることができました。僕たち日本人はこの災害を忘れてはいけないと強く思いました。

〔小笠原 唯さん〕

クジラ館で津波の被害がどのようなものかについて学んで、私は津波というのは人の命を多く奪うものだけど、ボランティア活動に参加してくれた温かい人たちなど、震災があったからこそ巡り合えた人たちもいて、あれだけの被害を受けていながらも復興が早く進んですごいと思いました。落ち着いて協力しながら行動することを学んだので、実際にあった時このことが出来るように訓練にしっかり取り組み行動しようと思いました。

〔高森 穂乃香さん〕

鯨と海の科学館に行って、震災でものすごい被害にあって多くの方が亡くなって、科学館も津波にのみこまれ、展示物が流され、もともとあった資料の半分以上が流され、館内に木やゴミなどが流れ込み、それを人の手作業で取除くなどのすごい努力があって今の鯨と海の科学館になったと聞きました。震災という辛いことを乗り越えた科学館からは、命の大切さを学ぶことができました。

〔上村 叶介さん〕

僕は、今回岩手県山田高校に行って防災訓練を合同で行いました。今回岩手県に行って学んだことがあります。まず、津波の被害について一瞬で町や村を襲うことに強い恐怖感を覚えました。津波なんか自分たちに関係ないと思っていましたが今度からは身近に潜んでいると思いたい生活したいです。防災訓練ではケガをした人の手当ての仕方など正しい方法を学んだので、今後活用して社会に役立てられるように頑張りたいと思いました。

〔木村 拓磨さん〕

僕は、山田町の防災訓練に行って学んだことがあります。まず、山田町の防災訓練に参加する前は震災なんて起きるわけないと思っていました。しかし参加してみたら震災が身近に感じられ、防災訓練は訓練のために行うのではなく実際に災害がおきた時のためにやるのだと改めて感じました。なので、これから防災訓練をするさいには実際の災害や震災だと思って、今までよりさらに真剣に取り組まなければならないなど、とても強く感じました。

〔河原木 香珠さん〕

鯨と海の科学館では、津波の恐ろしさ、当時の山田町の被害の大きさが分かりました。自分が同じような状況だったら自分はどう行動すればよいか考えました。冷静な判断をし、協力することが重要だと思いました。山田高校では避難訓練と応急処置を行いました。山田高校の方と協力しあい取り組むことができました。救急のとき、自分が相手の応急処置をしたり、自分にするときの対処法を学んだりすることができ、とても学びのある避難訓練でした。

〔熊谷 実春さん〕

今回、山田高校の防災訓練活動に参加して、怪我人を安心させて運ぶ方法や人の命を救う方法、怪我の処置の仕方などを学ぶ事が出来ました。また、山田高校の先生方や日本赤十字のボランティアの方々から震災の話を聞いて、とても胸が苦しくなりました。でもこうして復旧してきた今、自分たちにできることがあるのではと感じてくるようになりました。これからは他県であっても自分にできることは何かを考えていきたいと思います。今回、山田町防災訓練に参加し、鯨と海の科学館で、震災が起り、津波が来た後の科学館の状況や、震災当時の山田町のこと、捕鯨が盛んだった時の山田町について、貴重なお話を伺うことができました。

〔中村 七海さん〕

私たちは山田高校の生徒の方々と一緒に怪我の部分の処置の仕方、担架で運ぶ時の方法を学びました。そのような状況のときは怪我をした人を不安にさせないことが大事だと思います。災害時には、自分から率先して行動したいです。

〔長根 慧佳さん〕

今回、鯨と海の科学館と山田高校の防災訓練に参加して、たくさんの方が亡くなってしまい津波でものすごい被害にあったということを知ることができました。また、山田高校の方たちと一緒に避難訓練をし、応急処置の仕方を赤十字の方から詳しく教えてもらい、協力をしあいながらすることができました。身長が小さくても結構重いということがわかりました。教えてもらったことを今後に生かしていきたいと思います。

〔庭田 春菜さん〕

鯨と海の科学館では、津波が来た時やその時の状況を教えてもらい、仲間たちとの協力や助け合うことを学びました。また、津波の恐ろしさを改めて感じることができました。山田高校では、実際に避難訓練をして緊張感をもちながら行動することができたと思います。応急処置をやって、普段使っているものが被害に遭った際に役立つことを学ぶことができました。これらから学んだことを生かせるようにしっかりと頭に入れておきたいです。

〔宮澤 汐里さん〕

今回、山田町の防災訓練に行ってみて、地震や津波による被害の恐ろしさを実感しました。日本は世界の中でも地震が多い国で、被害が大きく復興にも時間がかかることがわかりました。死者も多く出すこともあります。地震が起きたら怖いですが、それに備え、今回教わった人が人の運び方や、けがの応急処置を覚えておこうと思います。たくさんの死者が出ないよう私にできることをしたいです。

〔類家 愛花さん〕

私は、山田町防災訓練に参加して、津波の恐ろしさと助け合いの大切さを学びました。鯨と海の科学館で、津波の恐ろしさを知りました。科学館の復旧工事に多くのボランティアが駆け付けたこともわかりました。山田高校で、避難訓練と応急処置の訓練を行いました。身近にあるもので、ある程度の処置ができることがわかりました。人を運ぶ際に多くの人の協力が大切なことも学べました。誰とでも助け合って落ち着いた行動をしたいです。

〔北村 瑠姫さん〕

鯨と海の科学館では、津波の恐ろしさについて知ることができました。また、津波以外にもクジラの生態について、海の生物について等知ることができました。山田高校では、防災訓練と応急処置を体験しました。馴染みのない所での防災訓練は勝手が効かずどこへ行けばいいのかわからずとても難しかったです。応急処置では、身近な物で簡単に応急処置ができることに驚きました。この体験で学んだことを今後に生かしていきたいです。

今後も、両校の特徴を生かして、お互いが刺激し合える交流を続けていきたいと思っています。

